



SDGsで 自分を変える 未来が変わる

博報堂DYホールディングス
CSRグループ
川廷 昌弘



MASAHIRO KAWATEI
PHOTOGRAPHY

川廷 昌弘 (かわてい まさひろ)

- 1963年 兵庫県芦屋市生まれ
- 1986年 博報堂入社
- 1993年 大阪写真専門学校(現ビジュアルアーツ)夜間部卒
- 1995年 阪神淡路大震災で被災
- 1998年 「情熱大陸」の立ち上げに関わる
- 2005年 「チーム・マイナス6%」メディアコンテンツ統括
- 2008年 環境コミュニケーション部長
- 2011年 東北大学グリーン復興プロジェクト事務局
- 2012年 CSRグループ部長
- 2013年 「TEDxTohoku」でスピーチ。
- 2016年 グローバルコンパクトSDGsタスクフォースリーダー

2010年、名古屋で開催された生物多様性条約(COP10)で「教育とコミュニケーション」会議でスピーチを行い決議を修正

CSR・気候変動・生物多様性・森林・復興など
営利・非営利を問わずコミュニケーションのプロデュース

日本写真家協会(JPS)会員でプロの写真家として、
「地域の大切な資産、守りたい情景、記憶の風景を撮る」



日本語コピー: 博報堂クリエイティブ・ボランティア

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



トーマス・ガス国連事務次長補が来社

2017年10月

博報堂DY社長の戸田と意見交換。博報堂社員ともディスカッション。

「169ターゲットの中の4.7はまさに博報堂DYのフィロソフィーそのものであり、”SDGs4.7会社”と命名したい。4.7に書いてあることこそが、企業と市民が結ぶ社会契約の本質であり、博報堂DYグループが提唱していること。自社のビジネス領域に関係するSDGsの目標を掲げる企業が多いが、博報堂DYは自社ビジネスを超えて、生活者と社会の関係性に力を発揮してくれている。」(ウェブより抜粋) =トーマス・ガス氏



株式会社博報堂DYホールディングス
代表取締役社長 戸田裕一

生活者一人ひとりが、自分らしく、いきいきと。

あけましておめでとうございます。

「持続可能な開発目標(SDGs)」という言葉をよく見聞きするようになりました。2030年までに様々な社会課題を解決することを目指し、国連で採択されたものです。政府、企業や団体で取組んでいらっしゃる方もおられることでしょう。

昨年10月末、このSDGsの国連における責任者であるトーマス・ガス国連事務次長補が当社を訪問されました。その際、SDGs達成に向けてのビジョンや、理解促進に向けた企業の取組みについて意見交換を行い、有意義な時間を過ごさせていただきました。契機となったのは、SDGsの日本における普及を目指した取組みに、博報堂DYグループがCSRとしてご協力申し上げたことです。

当社グループのCSRは、「生活者と社会の中に『新しい幸せ』を生み、その幸せをつないで、広げていくこと」を基本理念としています。企業として果たすべき責務を誠実に果たすことにとどまらず、社員一人ひとりが本業である日々の仕事で企業、団体やメディアのみなさんと共に取組むこと、また一人の生活者としての自発的な取組みを後押しすることで成り立っています。その基盤には、当社グループのフィロソフィーである「生活者発想」と「パートナー主義」があります。

ガス氏からは、「SDGsの理念である『誰も置き去りにしない』は、博報堂DYグループのフィロソフィーである『生活者発想』につながると言えるものがある」との言葉を頂戴しました。

「誰も置き去りにしない」という理念は、経済成長の恩恵を受けられない人々が増えて格差が広がり、社会の分断化が進み、世界が不安定なものとなってしまっている状況に対するものです。効率だけを追い求めて、誰かを取り残してしまうことなく、社会課題に取り組むというチャレンジです。

一方で、「生活者発想」は、人々を単なる「消費者」ではなく、「生活する一人ひとり」として深く洞察していくことです。人そのものを見る、生活者を中心とした考え方です。

そして、「生活者発想」には、「その人にとって、ほんとうに善いことか」という問いかけが極めて重要です。生活者の集合が社会であり、その問いかけは「社会にとって、ほんとうに善いことか」ということでもあります。「生活者発想」の最終的なゴールは、すべての生活者一人ひとりが、自分らしくいきいきと生きていける世の中だと考えています。「誰も置き去りにしない」というSDGsの理念は、まさに当社グループの「生活者発想」に通じるものです。

以下、省略



会社で作る！

「OPEN 2030 PROJECT」 SDGs採択と同時に発足

SDGsを21世紀に向かう企業・社会における 「機会」と捉えた実践プロジェクト

SDGsがイノベーションを起こす最大の機会と捉え
企業が多くくのセクターと具体的アクションを創るプロジェクト
目標12を入りに「ESG投資」と「エシカル消費」から着手



事務局

「xSDGラボ」慶應大学SFC研究所

代表

蟹江憲史 慶應義塾大学教授

メンバー

稲場雅紀 SDGs市民社会ネットワーク
大軒恵美子 フードロス・チャレンジ・プロジェクト
小田理一郎 有限会社チェンジ・エージェント
河口真理子 株式会社大和総研
川廷昌弘 株式会社博報堂
菊池紳 プラネット・テーブル株式会社
黒田かをり (一財)CSOネットワーク
関正雄 損害保険ジャパン日本興亜株式会社
藺田綾子 株式会社クラン
中尾洋三 味の素株式会社
野崎衛 レコテック株式会社
星野智子 (一社)環境パートナーシップ会議
若林秀樹 国際協力NGOセンター(JANIC)

博報堂「SDGsコーポレートプログラム」

統合報告書、IR・CSR支援、インナー・組織開発、コミュニケーション開発などサポート

ブランディング、組織開発、イノベーション、コーポレートコミュニケーションのメンバー
IR・CSRのコンサルティングのエッジ・インターナショナルなどグループのナレッジ活用

博報堂がメンバーに参画する慶応大「xSDGラボ」や「OPEN 2030 PROJECT」等と連携

SDGsコーポレートプログラム推進体制



仲間で作る！

「xSDG・ラボ」

慶應義塾大学SFC研究所 xSDG・ラボのご案内



SDGsの特徴の一つは、自律分散協調による、あらゆる主体の取り組みとその組み合わせによるイノベーションにあります。企業活動や地方自治体などによる取り組み、消費や投資活動、IoTなど、世の中のいろいろな活動とSDGsを「掛け合わせる」ことで、真に持続的な成長を実現する可能性を秘めています。＝「xSDG（エックスSDG）」

xSDG・ラボは、多様で複雑な社会における問題解決をSDGsという切り口で実現するため、アカデミアの枠を超えたソリューション指向の研究を実施し、SDGsのベストプラクティスを集積します。



慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 教授
慶應義塾大学SFC研究所 xSDG・ラボ 代表
蟹江 憲史

アカデミア主導による現地でのフィールドワークや研究調査などの活動をつうじて、課題解決による目標達成活動推進のノウハウを提供いたします。ご関心あるプログラムがございましたら、随時お問い合わせください。

SDGsチャレンジ(SDGs for School)



SDGs School

一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となること

中学校学習指導要領(平成29年3月公示) 前文より

「一般社団法人日本サステナブル・ラベル協会」

代表理事

山口真奈美 Manami Yamaguchi

理事

上田壮一 Souichi Ueda

川廷昌弘 Masahiro Kawatei

こくぼひろし Hiroshi Kokubo

末吉里花 Rika Sueyoshi

水野雅弘 Masahiro Mizuno



日本サステナブル・ラベル協会(JSL)の目的

当協会は、サステナブル・ラベル（持続可能な原材料調達や環境・社会的配慮につながる国際認証ラベル）を普及させることで、倫理的な生産・流通・消費を促進し、持続可能な社会の実現に貢献することを目的としています。

地域で作る！

世界でも類を見ない南三陸町FSCとASCのダブル認証



南三陸
戸倉心かき



「森里海ひといのちめぐるまち 南三陸」

17 パートナースHIPで
目標を達成しよう



町の魅力を発信

自然と人の物語
ツールやツアーなど
プログラムで発信



14 海の豊かさを
守ろう



15 陸の豊かさも
守ろう

国際認証の取得

持続可能な経営で
誇りある仕事の
伝統を継承

12 つくる責任
つかう責任



11 住み続けられる
まちづくりを



8 働きがいの
経済成長も



9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



山里海の 豊かな自然

環境省フィールドミュージアム構想
ラムサール湿地登録
ジオパーク登録

自然と共生する 暮らし

バイオマス産業都市構想
豊かな食文化と地域資源
生態系の回復力を知る営み

伝統と革新の 地域産業

農林水産、加工、流通
エネルギー、観光、教育
郷土の持つ文化的な価値

生業の創出

南三陸の魅力を形にして
外部と地域もつなぐ人づくり

3 すべての人に
健康と福祉を



4 質の高い教育を
みんなに



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



13 気候変動に
具体的な対策を



5 ジェンダー平等を
実現しよう



16 平和と公正を
すべての人に



自分で作る！

国際認証の流れ

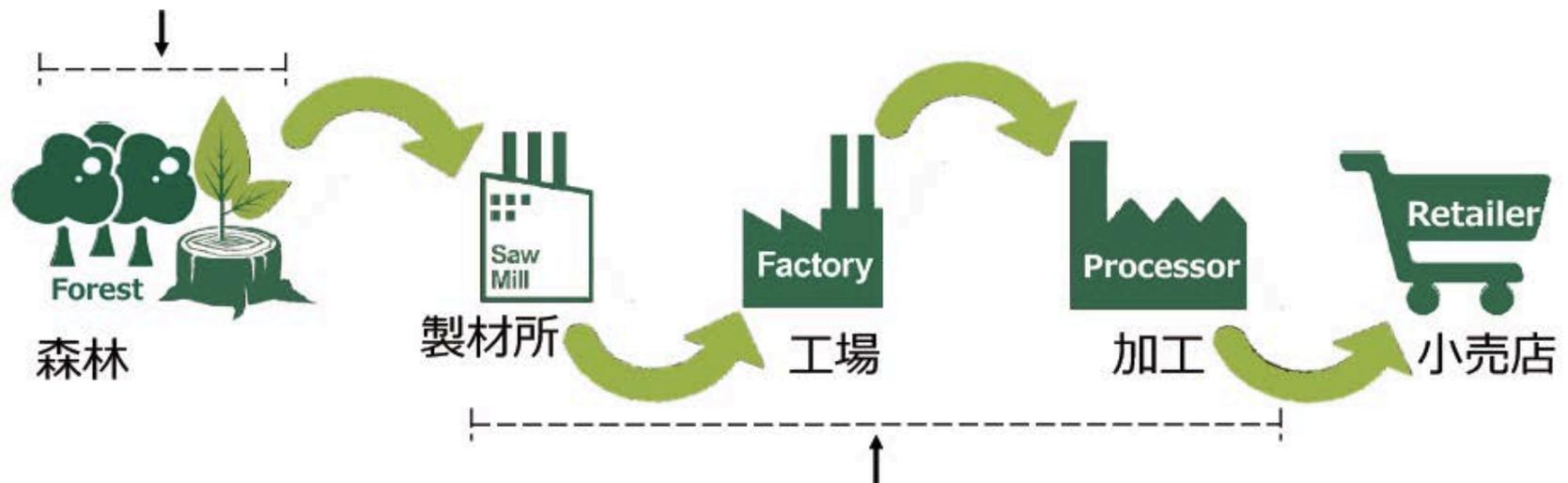


Forest Stewardship Council®

森林から製品までのサプライチェーン

Forest Management (FM) 認証

FSCの理念に沿った森林管理をしているか審査



Chain of Custody (COC) 認証

加工・流通過程でFSC認証の木材がそうでない木材と分別されて加工されているか審査

「物語のある家」 A House with a many good stories

国内初の
新築戸建FSCプロジェクト認証取得！



12 つくる責任
つかう責任



MASAHIRO KAWATEI
PHOTOGRAPHY



Certificate of Registration

This is to certify that

Mr. Masahiro Kawatei's House by Home Sweet Home Made

"the certified project" has been certified in accordance with the requirements of the Forest Stewardship Council® A.C. Project Certification Standard FSC-STD-40-006 using the Soil Association Certification chain of custody standard RT-PRO-001 for Partial Project certification and that Mr. Masahiro Kawatei's House by Home Sweet Home of

is hereby licensed to use the FSC® Logo to promote the Partial Project certification

Decorative sheathing roof boards, decorative verge boards, floor boards, exterior walls, ceiling boards, stairs step boards, counters for dining kitchen, hand and face washing

A description of the products or services that are included in the scope of the certificate are available on info.fsc.org or may be obtained from Soil Association Certification on request

Certificate Registration Code: SA-PRO-005999

Issued By: Soil Association Certification Limited
South Plaza, Marlborough Street
Bristol, BS1 3NX
United Kingdom

Issue Date: 10 November 2017

Signed on behalf of Soil Association Certification *Kevin Jones*
Kevin Jones, Head of Forestry

CA-PRO-001-04 June 2016 © Prepared by Soil Association Certification Ltd. FSC License Code FSC® A000525
This certificate itself does not constitute evidence that a particular product supplied by the certificate holder is FSC certified (or FSC Controlled Wood). Products offered, shipped or sold by the certificate holder can only be considered covered by the scope of this certificate when the required FSC claim is clearly stated on sales and delivery documents. This Certificate is the property of Soil Association Certification Ltd and all copies or reproductions of the certificate shall be destroyed or returned to the Soil Association Certification Ltd immediately, on request.

